

『在宅医療が必要な子どもを災害より守ろう』

地震大国日本において災害対策は行政主導で整備が進んでおります。その中で、災害対策が最も遅れている災害時要支援者は、在宅医療を必要とする子どもたちです。当センターにも人工呼吸器を装着している子どもたちが多くいますが、災害対策は不十分です。今回、熊本の震災時に、人工呼吸器を装着し、地域で生活している子どもたちの様子や実際の行動について、体験を話していただく機会を得ました。みなさまと在宅医療を必要とする子どもの命を守る災害対策を考えたいと思います。



日時：平成30年9月8日（土）13:00～16:00

会場：大阪母子医療センター 研究棟大会議室

定員：80名

主な対象：子どもに関わる全ての職種

参加費：無料

主催：大阪母子医療センター 災害時小児周産期医療検討ワーキング

*研修会は、公益社団法人大阪公衆衛生協会 「母と子のすこやか基金」の助成を受けています。

プログラム

13:00	開会の挨拶・研修企画意図について	大阪母子医療センター 和田和子
13:10	災害時要支援者である小児に対する小児周産期リエゾンの役割	大阪総合発達療育センター 竹本 潔 先生
13:40	熊本大震災時の呼吸器装着小児の実際 小児在宅ケア児の防災対策の現状	熊本小児在宅ケア・人工呼吸器研究会会長 緒方健一先生
14:40	小児在宅医療を専門としている開業医の災害対策	かがやきクリニック院長 南條浩輝先生
15:10	休憩	
15:25	質疑応答	
15:55	閉会の挨拶	
16:00	閉会	

◆申込み方法：申込者氏名・職種・所属施設名を下記アドレスまでメールでお申し込みください

saigai@wch.opho.jp 担当 宮川祐三子（看護部）

◆申込期間：平成30年8月1日～平成30年8月25日